

小学校

平成 9 年 度

# 教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

平成9年度

### 教育研究員名簿

分科会	地区	学校名	氏名
5 年	江東 渋谷 杉並 練馬 足立 江戸川	枝川小	中平純子
		富谷小	早川仁子
		杉並第七小	○深井薫
		南が丘小	林壽子
		保木間小	土屋順子
6 年	大田 北 町田 調布 清瀬	臨海小	土屋恵美子
		大森第一小	飯島典子
		桜田小	◎坂田由紀子
		町田第五小	鈴木恵理子
		八雲台小	松永淳子
清瀬第十小	荒井千代子		

◎世話人

○副世話人

担当 都教育庁指導部中学校教育指導課指導主事

小谷野 茂 美

# 目 次

目次と研究の概要	1
I 研究主題設定の理由	2
II 研究の基本的な考え方	3
III 研究内容	4
「第5学年」	
1. 題材について	4
2. 実態調査	4
3. 題材の目標	6
4. 指導計画と評価計画	6
5. 実践事例	
事例1 ごみのしまつについて考えよう	8
事例2 リサイクルの仕方を体験しよう	10
事例3 ごみを少なくするわけや方法を考えよう	12
6. 「第5学年」のまとめと考察	13
「第6学年」	
1. 指導計画と評価規準	14
2. 実践事例	
○児童の関心を高める学習の工夫	
事例1 地球にやさしいくらしをしよう 「ビデオレターが届いたよ」	16
○課題解決的な学習の工夫	
事例2 夏のくらし	17
①「夏休みの実践報告をしよう」	
②「地球にやさしい洗たくを考えよう」	
事例3 「調理のくふう」	20
3. 資料	22
4. 「第6学年」のまとめと考察	23
IV 研究のまとめと今後の課題	24

## 研究の概要

家庭をとりまく社会や環境が激しく変化している今日、その変化に応じて、よりよい生活を目指し、考え、判断し、実践する力を身に付けることが児童にとって必要である。

そこで、環境教育を通して、環境に対する意識を高めながら、よりよい生活を目指し、少しでも自分にできることを実践していこうとする心と力を育てたいと考えた。そのためには、児童の関心や意識を高めるような導入を工夫し、体験活動を多く取り入れた課題解決的な学習を継続的・系統的に行うことが有効であろうと考え、授業実践をもとに研究を深めた。その結果、児童が身近なことからはじめようという意識が高まり実践につながった。

## 「よりよい生活を目指し、考え判断し実践する力を育てる指導法の工夫」

### — 環境教育を通して —

#### I 研究主題設定の理由

家庭科は、児童の家庭生活を主な学習の対象とし、実践的、体験的な活動を通して、生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付け、よりよい生活を目指して工夫し創造とていく能力を育てるとともに、家庭生活を築いていく意欲と実践していこうとする態度を養うことをねらいとしている。

家庭生活は、家族の特徴や住む地域によって違いがあり、家庭を取り巻く環境や社会の変化等に対応して変わっていくものである。家庭科の学習では、児童の実態を考慮し、変化に対応しながら自分の力を発揮し、よりよい生活を築いていこうとする能力や態度を育てていくことが重要である。

近年、子どもが自ら考え、判断し、実践しようとする能力の育成が教育上の大きな課題となっている。

例えば、ごみや水に関することがらについては、第4学年の社会科の学習内容であり、今までに児童は、環境について社会で問題になっていることを学習している。しかし、調理実習の場面をみると、分別しないでごみを捨てたり、油をそのまま流しに捨てたりする児童がみられるのが現状であり、実践的な行動に結びつくまでに至っていないことが分かる。このようなことから、学習したことを日常生活に取り入れていこうとする実践的な能力や態度を育てていくことが重要である。

今、家庭科で大切なことは、学習の中に実践的・体験的なことがらを多く取り入れ、知識の伝達だけの学習に終わらないようにすることである。そのためには、児童一人一人が興味・関心をもって主体的に活動するような指導の工夫が大切である。魅力ある教材の準備や授業の展開を工夫することによって児童の心をゆさぶり、感動を与えることができるならば、児童は興味・関心をもって自分の課題に取り組み、自分で考え、判断し、実践していく力を身に付けていくと考えられる。また、導入場面を工夫し、実体験を多く積み重ねることで、児童の「何が問題か」を見い出す力が育ち、更に創意工夫する力と実践力が育つものと考えた。

家庭科の学習の中で環境にかかわることは、調理実習や被服製作などに比べると児童の関心がおよびにくい分野でもある。しかし、一人一人の児童が問題意識をもって生活と結び付けた課題解決の学習活動の工夫をすれば、児童の能力や態度の変容が期待できる。

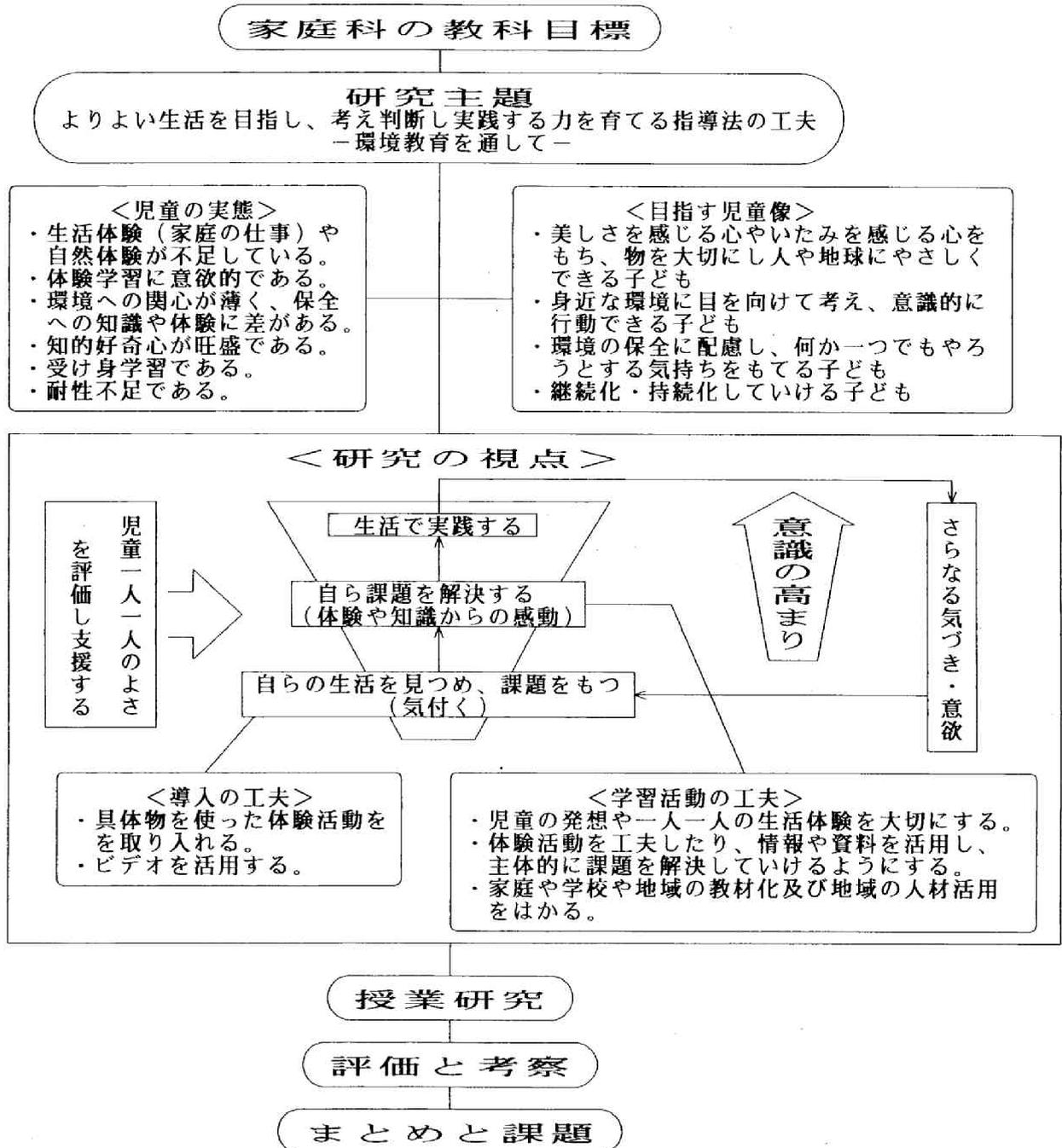
そこで本年度は、活動や体験を重視し、豊かな感性を育て、身近な問題に目を向けた環境教育の視点から学習内容を組み立て、よりよい生活を目指し、考え、判断し、実践する力を育てる指導法を工夫していくことにした。

## II 研究の基本的な考え方

研究主題に迫るために、以下の2点を重点とし、研究の構想を立てた。

- ① 家庭科における基礎的な知識・技能を基盤とし、環境に対する意識を高めながら、少しでも自分のできることをやろうとする心と実践力が育つようにする。5年生では「家族の生活と住居」領域において、まず環境に目を向けて考え、実践に対する意欲をもつことができるようになり、6年生では年間を通し全領域で取り上げることにより、さらに意識を高め自分のできる実践をふやしていけるようにする。
- ② 児童の関心・意欲を高めるような導入を工夫し、体験活動を多く取り入れた課題解決的な学習を継続的・系統的に行うことによって、児童の実践力を育て環境への意識を高める。

<研究の構想図>



### Ⅲ 研究内容

「第5学年」 題材名 「わたしたちの生活とごみ」

#### 1. 題材について

これまで私たちは、地球上の資源やエネルギーを消費することによって豊かな生活を追い求めてきた。その結果、環境破壊が進み、私たちの生活にも影響が出始めている。地球規模で循環型社会への転換が求められる時代となった。東京都でも「東京スリム」を掲げ、ごみの減量を推進している。ところが、使い捨てに慣れてしまった私たちにとって、現在の暮らし方を変えていくことは容易ではない。しかし、自分だけの利便性や豊かさを求めるのではなく、まわりを大切に人や地球にやさしい生活をするのが、今必要なのである。次世代を担う児童にとって環境を考えた暮らし方を学ぶことは重要であるといえる。

そこで5年生では、「家族の生活と住居」領域から「わたしたちの生活とごみ」を題材として取り上げ、ごみについての学習を通して、環境に目を向けて考え実践する意識をもつことができるようにしたいと考えた。ごみについては、4年生社会科で学習しており、ごみが増えすぎて困っているという知識はある。しかし、それを生活に結び付けて考え行動するまでにはいたっていない。そこで家庭科では具体的な実体験、実践活動を通して学習し、自分の生活を見直し、ごみを少なくするための工夫が具体的な生活場面で実践できる態度を養いたいと考えた。このことは、物を大切にすることや思いやりの心を育てることにつながると考えられる。

#### 2. 実態調査

- (1)調査目的 児童の環境、ごみに関する意識や実態を調査し、学習指導に役立てる。
- (2)調査時期 平成9年7月中旬（調査1）及び9月上旬（調査2）
- (3)調査対象 都内研究員所属校5校 第5学年 366名
- (4)調査結果

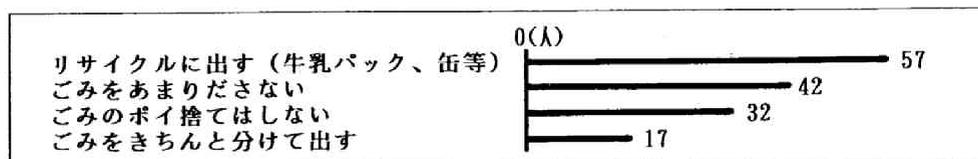
##### （調査1）

- ①今、世界的に環境問題が話題になっていますが、あなたは環境問題について、どんなことを知っていますか。知っていることを書きましょう。（回答複数）



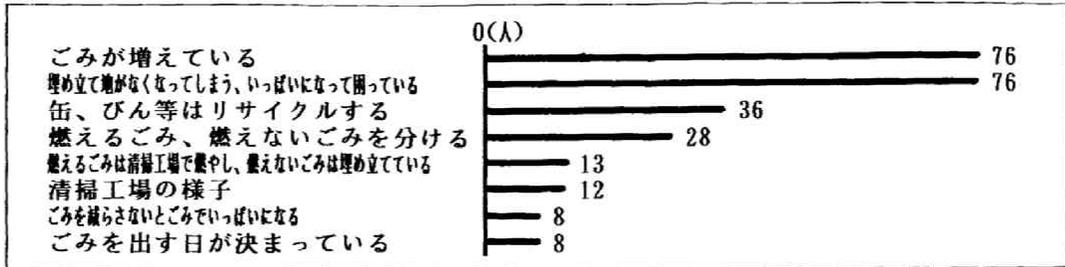
\*記述式にしたためか「わからない」と答えたり、無記入の児童も多かったが、難しい言葉を知っている児童も少数ながらいた。

- ②環境のことを考えて、あなた自身が毎日の生活で、心掛けて実行していることがありますか。それはどんなことですか。（回答複数）



\*その他「油を流さない」「水を無駄にしない」「ごみを拾ってごみ箱へ入れる」などの答えもあったが、「特にない」と答えたり、無記入の児童も多く、あまり関心が高いとは言えない。

③ごみについて 4年生で勉強したことや、今まで見たり、聞いたりしたことから知っていることを書きましょう。(回答複数)



\* 清掃工場の見学、ビデオを見たりしているので「ごみが増えている」「いっぱい困っている」ということや「どう処理されるか」など、ある程度の知識はあるようだ。

(調査2)

①家で出たごみを出す時、どのような種類に分けて出すか知っていますか。

知っている 84%	知らない 16%
--------------	-------------

「知っている」と答えた人  
○どのような種類に分けるのでしょうか。  
・燃えるごみ燃えないごみ [知っている]うち 32%  
その他・生ごみ・缶・びん・粗大ごみ  
○なぜ、そのように分けるのでしょうか。  
・燃えない物を燃やすと有害なガスが出る  
・処理の仕方が違うので、しやすいように

②家で出たごみを決められた場所へ持って行ったことがありますか。

A 11%	B 81%	C 8%
----------	----------	---------

A 自分の分としていつも持って行く B 頼まれて時々持って行く C ほとんど持って行ったことがない

③家で出たごみを出す日を知っていますか。

知っている 22%	知らない 78%
--------------	-------------

「知っている」と答えた人  
○いつですか。種類ごとに答えましょう。  
・出す日が正解 [知っている]うち15% 全員の3%

④あなたの家ではごみを出す時、気をつけていることがありますか。

ある 34%	ない 12%	わからない 54%
-----------	-----------	--------------

「ある」と答えた人  
○どんなことですか。  
・きちんと分別する 「ある」うち 49%  
・リサイクルへ 「ある」うち 5%

⑤あなたは、ごみを少なくするために実行していることがありますか。

ある 30%	ない 70%
-----------	-----------

「ある」と答えた人  
○どんなことですか。  
・リサイクルする [ある]うち 45% 全体の13%  
その他・物を大切にする・しっかり分別する

\* 9割以上の児童はごみを持って行った経験はあるが、ほとんどが受身的に時々持って行くだけで、出す日を知らない、知っているつもりでも正確に知らない、出す時に気を付けていることがわからないなど、自分の生活において意識してごみに関わっている児童は少ない。

(5) 考 察

4年生社会科で学習しているごみに関しては、環境問題で知っていることとして一番多く上げられ、心掛けていることでも、ごみに関することがほとんどであった。しかし「ごみのポイ捨てはしない」「ごみを拾ってごみ箱へ入れる」など、美化や道徳的な気持ちからの行動を、環境に対する心掛けとしてとらえるにとどまっている児童もいる。「ごみは分けて出す」「ごみは多い」「リサイクルすればごみは減る」など、ある程度の知識はあるが、自分の生活とは結び付いておらず、ごみに対する関心の低さやごみの分け方、出し方、少なくするにはどうすればよいか考えて意識して行動していない受身的な様子が見えてくる。学習したことを自分の生活に結び付けて、考え、判断し、実践する力を養うための指導の工夫が必要と思われる。

### 3. 題材の目標

- 生活から出るごみに関心を持ち、課題をもつ。
- ごみの分け方、出し方、リサイクルできる物の出し方が分かり、実践する。
- ごみを少なくすることの大切さが分かり、よりよい生活を営んでいこうとする。

### 4. 指導計画と評価計画

#### ○指導計画の工夫

- ・環境教育の導入としてごみの題材を独立して扱うことにより、掃除、整理・整とんから出るごみや、調理実習の生ごみの処理、被服でのリフォームなどで、効果的な実践ができると考えた。
- ・回収箱が増えるなど、リサイクル活動をしやすい環境が整ってきているという社会の変化に応じて、環境保護につながるリサイクルを実践する力を身に付けることに重点を置いた。

題材名 「わたしたちの生活とごみ」 (5時間)

(●は家庭学習)

小 題 材 名 (時数)	主 な 学 習 活 動
ごみのしまつについて 考えよう (1) ※事例 1	○自分の知っていることをもとにごみの実物を分別する。 ○全体で話し合いながら、疑問を明らかにし課題をつかむ。 ●正しい分け方・出し方を調べる。
ごみのしまつについて 確かめよう (1)	○調べてきたことをもとに発表し合い確認する。 ・可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、リサイクルできる物の分け方 ・ごみは、いつ、どのようにして、どこに出すか。 ○前時のごみを、実際に分け直す。 ●リサイクルできる物を、どこに、どのようにして出すか調べる。
リサイクルの仕方を体 験しよう (1) ※事例 2	○リサイクルできる物の回収場所を確認し、リサイクルマップを作る。 ○リサイクルできる物の正しい出し方を確認し、回収箱に入れられるように作業する。
ごみを少なくするわけ や方法を考えよう (1) ※事例 3	○リサイクルをする意義からごみを少なくする必要性を考える。 ○ごみを少なくする方法を話し合い、実践する意欲をもつ。 ●自分にできそうなことを見付けて、試み、記録する。
ごみを少なくする生活 を始めよう (1)	○自分の取り組みを発表する。 ・取り組みの記録、資料、リフォームした物など。 ○自分の生活に合った実践課題を見付け、計画を立てる。 ●実践し、記録する。

○学習指導の工夫

導入を工夫し，体験活動を多く取り入れ，一人一人を大切にした課題解決的な学習をする。

- ・地域ごとの班を編成する。
- ・導入から興味をもって課題を見付け，継続的に学習できるようなごみを用意する。
- ・ごみの実物を分別しリサイクルできるようにするなど直接体験を取り入れる。
- ・実践しやすくするようにリサイクルマップを作る。
- ・自分の生活を振り返り，学習したことを生かせる家庭学習（●）を設定する。

環境教育との関連事項	評価規準	評価の観点			
		関心 意欲 態度	創意 工夫	技能	知識 理解
○ごみの分別	①ごみの分け方・出し方に関心を持ち，正しく分けたり出したりしようとする。	①			①
○地域のごみ出しルール ○地域のリサイクルできる物 ○ごみの分別	①地域のごみの分け方・出し方やリサイクルできる物の実態を調べて，進んで発表する。 ②ごみを正しく分ける。	① ②		②	① ②
○地域のリサイクルできる物の回収場所 ○リサイクルルートにのせる正しい出し方	①地域のリサイクルできる物の回収場所が分かり進んでリサイクルマップを作る。 ②リサイクルできる物の出し方が分かり，作業し，実践への意欲をもつ。	① ②		②	① ②
○物の大切な使い方 ○無駄な消費の見直し ○環境に配慮した生活 ○不用品の有効活用	①リサイクルの必要性に気付く。 ②ごみを少なくする生活の必要性に気付き，リサイクルの他にも方法を考え，実践しようとする。	① ②	②		① ②
○家庭の実態に考慮したごみを少なくする生活	①自分の取り組みを進んで発表する。 ②自分の生活に合った，ごみを少なくするための課題を見付け，実践しようとする。	① ②	① ②		②

5. 実践事例

事例1 「ごみのしまつについて考えよう」(1/5)

- ア 目標
- ・ごみのしまつについて考えようとする。
  - ・すすんで、ごみを分けることができる。
  - ・課題をつかみ、解決しようとする。

イ 展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住居の近い児童で構成した班を編成する。</li> <li>○児童に家庭のごみを一つ用意させる。</li> <li>○題材のねらいにあわせ、第1時から第5時まで継続して使う学習材としてのごみの実物を班ごとに準備する。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ごみのしまつを考えよう</div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の持ってきたごみとごみの実物を見て考えたことを発表する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの種類や量の多さに気付く。</li> <li>・自分の家のごみと比べる。</li> </ul> </li> <li>○ごみのしまつについて自分の考えをワークシートに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ごみの実物を提示する。</li> <li>○4年社会科のごみの学習を思い出すよう助言する。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ごみを分けよう</div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○班で話し合いながら、ごみをしまつの仕方によって分ける。</li> <li>○ごみの分け方について疑問点を見付ける。</li> <li>○クラス全体で話し合いながら、望ましいごみの分け方出し方を考える。</li> <li>○ごみのしまつについての課題をつかむ。</li> <li>○課題解決のための方法や手段を考え発表する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ集積所へ行き調べる。</li> <li>・清掃局や区からのお知らせで調べる。</li> <li>・家の人に聞く。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の考えを大切に、意見が異なる時は無理に一つにしなくてよいことを確認する。</li> <li>○地域班や家庭により、しまつの仕方に違いのあることを知らせる。</li> <li>○多様な課題解決法をとるよう助言する。</li> <li>○用いた資料を次時に持ってくるよう伝える。</li> </ul>

児童の  
ワークシート

燃えるゴミ燃えない  
ゴミリサイクルできる  
もの、なおしてまた使える  
ものにわけて、すして  
もゴミを減らしていい  
と思う。

ゴミにもいろいろ種類がある。  
分けてみるとここがわからない中  
がたくさんあった。  
いつもやらないことだったから、  
少しなれなくってたいへんだった。

わがしが考えにマーク  
ゴミの分け方が  
勉強できて  
よかったです。



トレイはここにまとめよう。

ラップの刃は危ないから取ろう。



ペットボトルや缶も集めているね。

うちは牛乳パックはリサイクルに出すよ。

評価 (観点/方法)	資料
<p>○ごみに関心を持ち、ごみの種類の多さに気付く。 (関/観察・発表)</p>	<p>ごみの実物 (可燃ごみ・不燃ごみ・資源ごみ・リサイクルできるごみ・危険物 再利用可能な物など)</p>
<p>○自分の考えをもつことができる。 (知/ワークシート)</p> <p>○進んで、ごみを分けようとする。 (関・知/観察)</p>	<p>集積所の写真 教材提示装置 ワークシート</p>
<p>○課題をつかみ、家庭での調べ学習への意欲をもつ。 (関/ワークシート)</p>	



むずかしいな。卵パックはどうしよう。

いろいろなごみがあるね。

タオルは燃えるごみ？  
まだ使えるのにもったいないね。

ラーメンの入れ物はどうする？



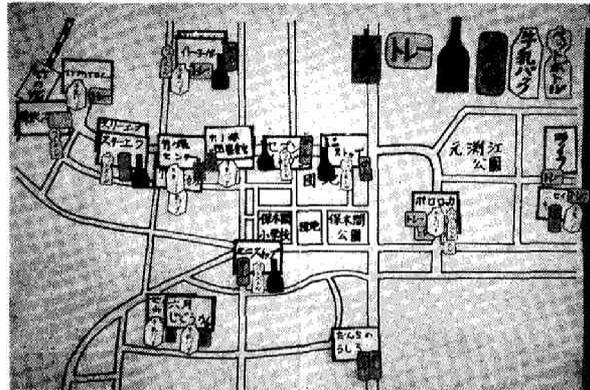
事例2 「リサイクルの仕方を体験しよう」(3/5)

ア 目標 ・リサイクルできる物の回収場所が分かり、回収箱に入れるようにする。

イ 展開

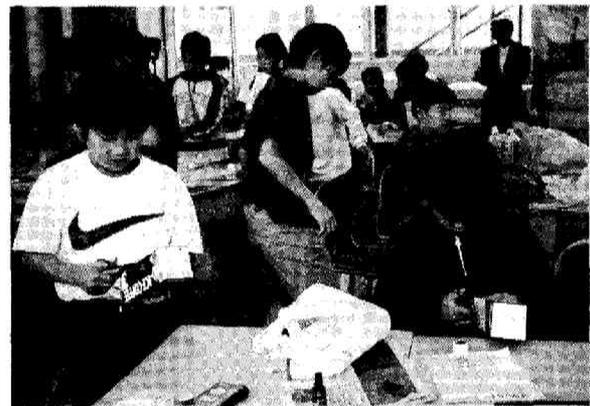
学 習 活 動	教 師 の 支 援
○リサイクルの仕方を体験することを知る。	○リサイクルできる物を確認する。
リサイクルマップを作ろう	
<p>○調べてきたことを発表する。</p> <p>○リサイクルできる物と、その回収場所を地域の地図に記入し、リサイクルマップを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットボトル ・牛乳パック</li> <li>・ビン ・缶</li> <li>・発泡スチロールトレイ</li> </ul>	<p>○店や家の人に話を聞いてきた児童には、発表するように促す。</p> <p>○地域班で作業を進める。</p> <p>○スーパー、コンビニエンスストア、公共施設に回収箱があることに気付くようにする。</p>
リサイクルできるようにしよう	
<p>○リサイクルするための正しい出し方を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞 ・ペットボトル</li> <li>・牛乳パック ・ビン</li> <li>・缶 ・発泡スチロールトレイ</li> </ul> <p>○実物を使って、リサイクルできるように作業する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの実物</li> <li>・家から持って来たペットボトル、牛乳パック、(缶)。</li> </ul> 	<p>○実物を使って実演させ、正しい出し方を確認する。</p> <p>○継続して用いているごみの実物の中のリサイクルできる物は、仮の回収箱を用意して、入れられるようにする。</p> <p>○あらかじめ、ペットボトル、牛乳パック(缶)を用意させておく。</p> <p>○危険のないように注意する。 (ペットボトルは必ずふたを取ってつぶすなど)</p> <p>○持参した物は持って帰り、近くの回収箱に入れるようにする。</p>
○次時は、リサイクルの意義を学習することを知る。	○作業前後の容量の差に気付くようにする。

評価（観点／方法）	資料
<p>○家で調べてきたことを発表しようとする。 （関／観察）</p> <p>○リサイクルできる物とその回収場所が分かる。 （知／観察，リサイクルマップ）</p>	<p>○地域の地図</p> <p>○絵カード （ペットボトル，牛乳パックなど）</p>
<p>○リサイクルするための出し方が分かり，発表しようとする。 （知・関／観察）</p>	<p>○ペットボトル，牛乳パック，缶</p>
<p>○回収箱へ持って行くための準備ができる。 （技／観察）</p> <p>○実践への意欲をもつことができる。 （関／観察，発言）</p>	<p>○ペットボトルをつぶす前の物とつぶした物</p>



リサイクルマップ

地域の地図に，回収場所とリサイクルできる物の絵カードをはる。



「牛乳パックは固くて，切り開くのはなかなかたいへんだよ。」

<児童の感想>

リサイクルができるのとできない物がくべつできるようになりました。家でも牛乳パックを切って住区センターに持ていったり，それを牛乳パックでいすを作ったりしました。

わたしは，ペットボトルや缶や牛乳パックの，出し方をあまりよくしらなかったのでも，勉強になりました。これからは自分でリサイクルできるものは，自分で出せようと思います。

事例3 「ごみを少なくするわけや方法を考えよう」(4/5)

- ア 目標 ・ごみを少なくするわけを考え、その方法を話し合う。  
 ・ごみを少なくするために自分のできることを見付ける。

イ 展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価 ( 観 点 ・ 方 法 )	資 料
ごみを少なくする方法を考えよう			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○今まで学習したことからリサイクルの必要性を考える。</li> <li>○リサイクルの他にごみを少なくする方法を考え、班で話し合う。</li> <li>○結果をカードに記入する。</li> <li>○各班のカードを参考にしてごみを少なくする方法をみんなで確認する。                      ・リフォームして使う。                      ・無駄な物は買わない。                      ・物を最後まで使いきる。                      ・修理して使う。など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境の保護、資源の有限性や埋立地の不足などに目が向くように資料も提示する。</li> <li>○リサイクルマークなどにも注目するよう助言する。</li> <li>○継続使用しているごみの実物を見て考えさせる。</li> <li>○多様な思考ができるように他の実物も用意しておく。</li> <li>○お互いの考えを比べられるように記入したカードを提示する。</li> <li>○経験のある児童に発表を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リサイクルの必要性に気付く。 (関・知/発表)</li> <li>○ごみを少なくする方法を考える。 (関/観察)</li> <li>○進んでお互いの考えを比べる。 (関/発表) (知/ワークシート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>VTR 埋立地の地図 再生産品や再利用品</li> <li>ごみの実物 カード</li> <li>ワークシート</li> <li>リフォームした物</li> </ul>
自分のできそうなことを見付けよう			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のできそうな取り組みを考え、記入する。</li> <li>○少しでもごみの減量の努力や工夫したことの記録を残すことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の行動が残るように記録することを知らせる。</li> <li>○実践の発表会をすることを伝える。</li> <li>○新聞記事資料などや製作品も持たせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の生活をもとに、取り組みを見付けられる。 (意・工/ワークシート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録用紙</li> </ul>

## 6. 第5学年のまとめと考察

第5学年では、環境に配慮した地球にやさしい生活ができるよう、まず「ごみ」に関する題材を取り上げることにした。児童が自らの生活を見つめ、意識を高め、自分でできることを見付け、継続して実践できるよう、研究を進めた。

### ・指導計画の工夫

ごみの分別を考えることから始めて、環境について関心をもつように指導計画をたてた。これにより調理実習でのごみ、袋の製作での布地の活用などについても意識するようになった。また、リサイクル活動をしやすくするよう指導計画をたてたが、リサイクルを体験することにより実践への意欲が高まった。

### ・導入の工夫

児童が「おもしろそうだ、やってみよう。」という気持ちをもつことが学習の始まりであると考え、導入を工夫した。ごみの実物を使っての体験活動では、児童の望ましい分別の仕方に気付き、興味・関心をもって、課題に取り組む糸口をつかめた。さらにごみの実物を1時間目から5時間目まで継続して分別したり、リサイクルに回せる物を調べたりすることで、ごみを減らせることが実感として分かり、興味・関心が持続できた。

また、ごみの埋立地のビデオを見ることで、児童はごみ減量が、緊急の問題であると強く意識し、実践への意欲をもつことができた。

### ・学習活動の工夫

#### <体験活動の工夫>

ごみを実際に分別する、リサイクルする物を回収箱へ持って行く準備をするなどの体験活動を通して、リサイクルに関心をもち、自分でできることは実践していこうとする意欲をもつことができた。1時間目から5時間目までを通し、可燃ごみ、不燃ごみなどが自分たちの努力でごみにならず資源になること、ごみを減らせることが視覚的、体験的にとらえられ、実践化への意欲をもつことができた。また、ごみに直接ふれ、ごみの減量、リサイクルのためのいろいろな方法が考え出せ、以後の実践の日常化に役立った。

自分たちの暮らしている地域に実際に出て、リサイクルのための回収箱がどこにあるか調べ、リサイクルマップを作った。この活動で、身近にたくさんの回収箱があることを見付けるなど、リサイクル活動に取り組む意欲をもち、以後の実践への意識が高まった。

#### <グループ作りの工夫>

同じごみの回収日ごとにグループを作り学習した。そのため、家の近くのリサイクルのための回収箱調べが取り組みやすく、実践への意欲が高まった。また、グループごとにごみの分別、リサイクルのための準備など継続的に行ったため、児童が課題に向かって取り組みやすかった。

そのほか、地域や学校の実態に合わせて、地域の方（例えば、区役所の方、保護者、地域でリサイクル活動をしている方など）を招いて、話を聞いたり、リサイクル作品を作ったりする活動も、児童の意識を高め課題を解決するのに効果的であった。

以上のように、研究を行ってきたが、これからも一人一人が意欲をもち、環境に配慮した地球にやさしい生活が実践してけるよう研究を深めていきたい。

「第6学年」

1. 指導計画と評価規準

よりよい生活を目指して考え、判断し、実践する力を育てるために、第6学年では次のように指導計画と評価規準を作成し、さらに環境教育との関連を明らかにした。

- (1) 家庭生活における身近な環境問題について考え、環境に配慮した生活ができるよう、どの題材においても環境教育と関連する学習を取り入れた。

題材名	小題材名	時間	指導内容
よりよい家庭生活をめざして(4)	家庭とはどんなところだろう 生活時間を見直そう 地球にやさしいくらしをしよう (事例1)	1 2 1	自分の生活時間の見直し・協力するための工夫 生活時間の有効な使い方の工夫 環境を考えた生活の見直し
わたしたちの食生活(8)	どんな食事をしているのだろう ごはんのみそしるを作ろう こんだてを作ってみよう 楽しい食事をしよう	1 4 2 1	米やみその栄養と特徴・一食分の分量・ごはんのみそしるの調理法・みそしるの材料の組み合わせ 盛り付けの仕方・配膳の仕方・食事の仕方 一食分の献立・栄養を考えた食品の組み合わせ
生活に役立つエプロンやカバー(12)	身のまわりにあるエプロンやカバーをさがそう 世界にひとつのエプロンやカバーを作ろう	1 11	使用目的・形・作り方・製作計画 採寸・大きさの決め方・型紙の作り方 布の見積もり・材料の選び方 型紙のおき方・裁断の仕方 手縫いやミシン縫いの活用 目的に応じた縫い方・簡単な装飾の工夫
夏のくらし(8)	すずしい住まい方を工夫しよう 夏休みのできることを考えよう	1 1	すずしい住まい方の工夫・すずしい着方の工夫 環境にやさしいくらし・夏休みの実践
	夏休みの実践報告をしよう (事例2-①) 地球にやさしい洗たくを考えよう (事例2-②) 洗たくをしよう ほころびを直そう	1 2 2 1	夏休みの実践報告 環境を考えた洗濯の仕方・洗濯の必要性 洗濯に必要な洗剤と用具・手洗いと洗濯機洗い ほころび直し
くらしと買い物(4)	買い物のしかたを考えよう 商品の選び方を考えよう 買い物とくらしを考えよう	1 1 2	目的にあった品物の選び方 買い物の仕方 計画的に金銭を使う工夫・金銭収支の記録の仕方
調理のくふう(10)	粉ふきいもを作ろう 魚や肉の加工品を調べよう 調理のくふうコンクールをしよう (事例3) まとめよう・生かそう	2 2 5 1	じゃがいもの栄養と調理法 魚や肉の加工品の種類と特徴・選び方 じゃがいもの調理・魚や肉の加工品の調理 環境にやさしい調理の工夫
冬のくらし(6)	あたたかい着方をくふうしよう 明るい住まい方をくふうしよう 暖かい住まい方をくふうしよう 地球にやさしい冬のくらしを考えよう	1 2 2 1	暖かい着方の工夫 住まいの働き・明るさの工夫・採光や照明の工夫 日光の利用・暖房器具の安全な使い方・換気 環境にやさしいくらし・冬休みの実践
これからの家庭生活(10)	家族と協力して生活しよう 家族へのおくり物を作ろう 地球にやさしいくらしを考えよう	1 4 5	家族の協力の大切さ 既習技能を生かす活用の仕方の工夫 環境にやさしいくらしを継続しようとする態度 近隣の人々や地域や社会に目を向けた生活
楽しい会食(8)	どんなときに会食をするのだろう 自分たちで計画を立てよう 会食の調理をしよう	1 3 4	会食の意義・会食の目的と会食のもち方・会食にふさわしい献立・材料、分量、買い物の計画・係分担 会場作り・盛り付けや配膳の工夫・会食の仕方

(2) 身近な環境問題について考えたことを継続して実践し、また、次の学習のステップになるよう指導の工夫をした。

(3) 評価規準に環境の視点を加え、一人一人のよさを評価し支援する工夫をした。

評価の観点 ○関心・意欲・態度 ◇創意工夫 ☆技能 ★知識・理解

環境教育との関連項目と指導の工夫		評価規準
地球にやさしい家庭生活	導入を工夫し家庭生活における身近な環境問題に関心をもつ。	①団らんや仕事など生活時間の有効な使い方を工夫し、家庭生活に協力できる。○◇★ ②身近な環境問題に関心を持ち、よりよい生活をしようとする意欲をもつことができる。○◇
無駄のない調理 水の適切な使い方 ごみの始末	材料の選び方や量、後片付けの仕方など環境に配慮した調理をするように意識をもつ。	①ごはんのみそ汁に必要な材料の分量が分かり、計画を立てて手順よく調理ができる。☆★ ②望ましい食事の仕方が分かる。★ ③栄養を考えた食物のとり方が分かり、一食分の献立を作ることができる。★ ④環境に配慮した調理の仕方を工夫できる。○◇
カバーを使うことの意義 布の有効利用の仕方 無駄のない裁断 布の再利用	リフォームによる製作を工夫したり、余り布を有効に活用する。	①使用目的に応じた形や大きさの決め方が分かり、簡単なエプロンやカバー類を製作できる。○◇☆★ ②布をうまく利用し、無駄のない製作ができる。○◇☆
省エネルギーの夏のくらし 地球にやさしい家庭生活	身近な環境問題について夏休みに課題をもつ。	①夏の住まい方の工夫が分かる。環境に配慮した夏のくらしについて考え、実践することができる。○◇★
洗剤の使い方 水の使い方	地球にやさしい洗濯について考え、実験を取り入れた体験学習をする。	②夏の適切な着方が分かる。★ ③日常着の手入れの仕方が分かり、洗濯およびほころび直しができる。◇☆★ ④環境に対する意識をもちながら洗濯をすることができる。○◇☆★
目的に合った買い物の仕方 リサイクル商品の活用 エコマーク等の表示	調理実習の材料の買い物を通して、無駄のない買い方を考える。	①物の選び方や買い方を考えて、適切に購入することができる。○◇★ ②金銭の使い方と記録の仕方を工夫することができる◇★
無駄のない調理 水の適切な使い方 ごみの始末	買い物・調理・片付けのすべての場面で環境について考え、調理の工夫コンクールをする。	①じゃがいもの調理・魚や肉の加工品を使った調理に必要な材料の分量が分かり、計画を立てて手順よく調理ができる。◇☆★ ②盛り付けや配膳を工夫できる。◇☆ ③環境に配慮した調理の仕方を工夫できる。○◇☆
目的に合った照明・採光 省エネルギーの冬のくらし 地球にやさしい家庭生活	学習したことを生かして冬休みに環境に配慮した暮らしを工夫する。	①冬の住まい方の工夫が分かり、換気をしたり、暖房器具を安全に扱うことができる。◇★ ②採光のための工夫や照明の仕方がわかる。◇★ ③環境に配慮した冬のくらしについて考えることができる。○◇★
地球にやさしい家庭生活と 地域の環境 布の再利用 牛乳パックの活用	牛乳パックや布を再利用して、家族へのおくり物のメッセージカードを製作する。	①家庭生活に役立つ簡単な物を製作し、活用できる。◇☆ ②近隣の人々の生活を考え、環境を清潔にしたり、騒音を防止したりする必要性が分かる。○◇★ ③環境に配慮した生活の大切さが分かり、実践しようとする態度を身に付ける。○◇
無駄のない会食の準備 水の適切な使い方 ごみの始末	環境に配慮した会食の計画を立てる。	①家庭生活における会食の意義を理解し、計画を立てて楽しい会食ができる。○◇☆★

## 2. 実践事例

### 事例1 児童の関心を高めるための導入の工夫

- 1 小題材名 地球にやさしくらしをしよう 「ビデオレターが届いたよ」
- 2 小題材の目標
  - ・環境を守るために自分のことができることがわかり、一年を通して実際に取り組んでいこうとする意欲をもつことができる。
- 3 研究主題にせまるための工夫
  - ①ビデオレターを導入に使うことにより、児童の意欲・関心を高める。
  - ②学習カードを工夫し、一人一人が今すぐできることを考え、継続して実践していけるようにする。
- 4 本時の展開

学 習 活 動	教師の支援・留意点      *評価	資料など
本時の学習内容を知る。  実践できることを考える。 ・ビデオレターを見る。  ・感想を話し合う。	・新聞記事を紹介し、環境に対する関心を喚起する。  ・環境を守ることとはどんなことかイメージがもてるようにする。 ・友だちの実践例や5年生のときの学習をもとに、自分もできることをやってみようという意欲がもてるようにする。	新聞記事  ビデオレター
「地球のために、自分のために、今すぐできること」を考えよう。		
・地球を守るためにやっていること、やりたいことを具体的に書く。  ・主に学校でみんなのできることを考え、短冊に書いて発表する。	・ヒントになるようなものを提示し身近にすぐできることに気付くようにする。 *自分にできそうなことを考えることができたか。  ・一年を通して学校でも実践していくことを確認する。 *実践していこうという意味がもてたか。	学習カード  短冊

## 5 考 察

- ・他校の児童の実践を知り、さらに自分たちも取り組んでいこうという意欲をもつことができた。
- ・学期ごとに自己評価し、書き加えられる学習カードを工夫したことにより、児童は自らの取り組みを見直し継続して実践していこうとした。



事例2-② 児童の自主学習を生かした課題解決的な授業の工夫

1 題材名 夏の暮らし「地球にやさしい洗たくを考えよう」 5 / 8

2 題材の目標

- ・日本の夏の気候の特徴を知り、涼しく暮らすことができる。
- ・衣服の涼しい着方が分かり、工夫することができる。
- ・洗たくの必要性や衣服に適した洗たくの仕方が分かり、日常着の洗たくができる。
- ・衣服のほころび方とその原因が分かり、簡単なほころびを直すことができる。
- ・身近なことから実践し、環境に対する意識を高めることができる。

3 研究主題にせまるための工夫

- ①夏休み中の自主学習を生かし、水を汚さない・無駄にしない洗たくについて考えられるようにする。
- ②児童が考えた課題解決の方法で実験を行うことにより、一人一人が地球にやさしい洗たくについて発見していけるようにする。

4 本時の指導展開

(1) 本時の目標

- ・自分たちが考えた方法で実験することができる。
- ・実験の結果から地球にやさしい洗たくの仕方を考えることができる。

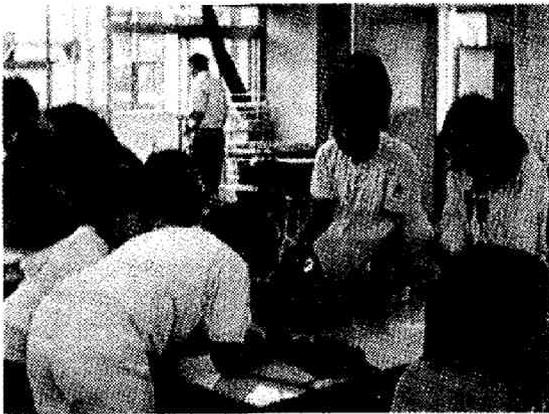
(2) 本時の指導

学 習 活 動	教師の支援 ・留意点 *評価	資 料
グループごとの実験の目的、内容を確認する（カードにまとめ黒板に貼っておく。）（5分） （水だけで洗う お湯を使って洗う） （洗剤を規定量使う たくさん使う→汚れの落ち具合を比べる） （合成洗剤と石けんで、汚れの落ち方を比べる） （溜め水すすぎと流し水すすぎの水の量を比較する） （手洗いと洗濯機洗いとの比較） （ブラシや洗濯板で洗う）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の内容に合わせて、グループを編成しておく。</li> <li>・必要と思われる用具をそろえておき、児童が選ぶことができるようにする。</li> <li>・実験の仕方を確認し、安全に実験できるよう助言する。</li> <li>*目的に応じ、協力して実験・観察をしているか。</li> </ul>	ワークシート 水タンク 塩 洗い桶 簡易式流し ビーカー ポット ハンカチ くつ下 石けん 合成洗剤 石けん洗剤
グループごとに実験をする（30分） グループごとに実験の結果をまとめ、発表する（感想も含めて）（10分） （水より、お湯の方がよく落ちる） （洗剤をたくさん使うと、あわがたくさん出てしまう）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの発見が、どのように地球にやさしいのかを確認できるようにする。</li> </ul>	「使用量と洗浄力の関係」のグラフ

<p>(規定量を守った方がよい)</p> <p>(溜め水のほうが、少ない水ですすげる)</p> <p>(手洗いをしたり、ブラシや洗濯板を使うと水だけでもある程度汚れは落ちる)</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>川や海を汚さない。 水がむだにならない。</p> </div> <p>*地球にやさしい洗たくについて、考え見付けることができたか。</p>	<p>「生活排水の 汚れの内訳」 のグラフ</p>
---	--	-----------------------------------

5 授業の考察

- ・夏休みの生活体験を基に一人一人が課題をもち、実験に取り組むことができた。
- ・児童が考えた、課題別グループで実験を行うことにより、地球にやさしい洗たくの方法を発見することができた。
- ・洗たく後の排水にまで目を向けた児童もおり、意識の高まりが感じられた。



<学習カード>

環境にやさしい洗い方

<p>&lt;実験したいこと&gt;</p> <p>水と洗剤で"あらうのと、お湯と洗剤で洗うのはど"ちらが"きれいになるか"を"比べる"。</p>
<p>&lt;準備する物&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くっした</li> <li>・洗剤</li> </ul>
<p>&lt;実験方法&gt;</p> <p>(洗たく物)くっした (洗剤)29g (水量)500cc (洗剤)2g</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重さをはかる。</li> <li>・水で洗う。</li> <li>・お湯で洗う。</li> <li>・くら"は"る。</li> </ul>
<p>&lt;予想&gt;</p> <p>水で洗ったほうが"きれいに"なる"と思"う。</p>
<p>&lt;結果&gt;</p> <p>お湯で洗ったほうが"きれ"いにな"った。水で洗ったほうは"な"かなか"きれ"いにな"らな"かった。</p>
<p>&lt;まとめ・感想&gt;</p> <p>水で洗ったのは、"こ"う大"変"な"った。洗剤はあんなに"少"な"くても"きれ"いにな"るん"だ"と"わ"く"り"した。</p>

実験後に行った洗濯実習での感想・新聞

<環境カード>

10月2日	地球にやさしい洗たく
<p>水を節約してよく手と洗たく板で洗った 使いおわ"る"水は草や木にあげた。</p> <p>何人も手をおけにいれ"る"と水がこぼれ"る"ので"注"意したほうが"い"いです。</p>	

<洗たく新聞>

衣服の取りあつかいは、衣服の横にある表示を見ればわかる。

<p>洗いの</p> <p>40</p> <p>40℃以下の温度で温水洗たく機洗いができる。</p>	<p>アイロンのかけ方</p> <p>あて布をして中温(110~160℃)でかける。</p>	<p>しぼり方</p> <p>しぼ"り"ては"い"けない</p>	<p>ほ"ろ"す</p> <p>つるして日かげに干す</p>
--	--	----------------------------------	--------------------------------

よ"こ"れた衣服はあせ"や"ご"れを"吸"い"取"り"にく"なる"た"め"着"心"地"が"悪"く"なる"ま"よ"め

洗たくしすぎ

すすぎだけで水の量がちか"う"

〈すすぎ〉1回2分3回 洗剤のとれる割合

〈流しすぎ〉1分間9ℓで2分 洗剤のとれる割合

1回目 50 割合 100

2回目

3回目

使った水の量6ℓ

1分後 50 割合 100

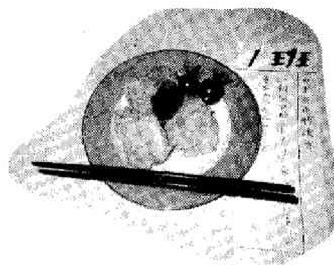
2分後

使った水の量2ℓ+3ℓ=20ℓ

これだけで水のせ"つ"やくが14ℓも"で"きる

事例 3

体験活動を工夫した課題解決的な学習



(1) 題材名 調理のくふう

(2) 題材の目標

- ・さまざまな調理方法があることを知り、意欲・関心をもち、おいしい料理を作ろうとする。
- ・じゃがいもや魚や肉の加工品の特徴や調理の仕方を知り、調理法を工夫することができる。
- ・必要な材料や分量を考え、予算内でよりよい買い物ができる。
- ・「エコクッキング」を工夫し、買い物や調理実習に生かすことができる。

(3) 研究主題にせまるための工夫

- ①児童の考えや工夫を生かしたコンクールを設定することにより、主体的に学んでいけるようにする。
- ②夏休みの児童のチャレンジカードを生かした「家庭科だより」を作り、「エコクッキング」をしてみようという意欲・関心がもてるようにする。
- ③学習カードを工夫し、自主的・計画的に実習できるようにする。
- ④児童が考えた調理が成功するように、「家庭科だより」を作って支援する。また、どの班にも、それぞれのよさを認めた賞を与え評価する。

(4) 学習計画（10時間）

- じゃがいもについて知ろう・粉ふきいもを作ろう …… 2時間
- 魚や肉の加工品を調べよう・買い物の仕方を考えよう …… 2時間
- 調理のくふうコンクールの計画を立てよう …… 2時間
- 調理のくふうコンクールをしよう …… 3時間
- まとめよう・生かそう …… 1時間



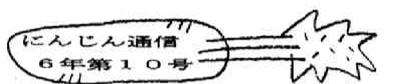
ポテトのチーズ焼き



やったあー。  
完成だ！

じゃがいもの  
皮はうすくむこう。

<夏休みのチャレンジカードからエコクッキングを呼びかける家庭科だより>



調理の工夫コンクール

- くめあて>
1. 「じゃがいも」や「肉や魚の加工食品」を使って調理の仕方を工夫し、時間内に協力して料理を作る。
  2. 買い物の計画をし、予算内で買い物を行い、買い物カードに記入する。
  3. エコクッキングを工夫する。

- エコクッキングについて、みんなのチャレンジをのせておきます。
- ・ゴミを少なくする工夫 ……捨ててしまう部分も工夫して使う。  
資源ゴミはリサイクルする。  
玉ねぎの皮は染め物に使う。
  - ・水を汚さない工夫 ……油はふきとってから洗う。  
魔法のたわしを使う。(1組の石渡君のお母さん・5年1組の山田さん・交通指導員の中屋さんからいただいた優れ物です)
- 各班でよく考え、他にもいろいろ工夫してみてください。

<キッズアイデア>  
ゴミを出さないプリン

材料  
お菓子屋さんで買ったプリン  
砂糖…60g  
卵…2個  
牛乳…500cc  
お湯…100cc  
お酢…10cc

作り方  
プリンを作る時にお湯を少し加えて混ぜるとプリンが固まりやすくなるよ。

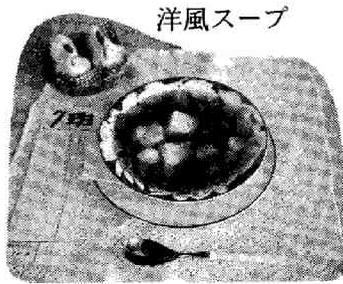
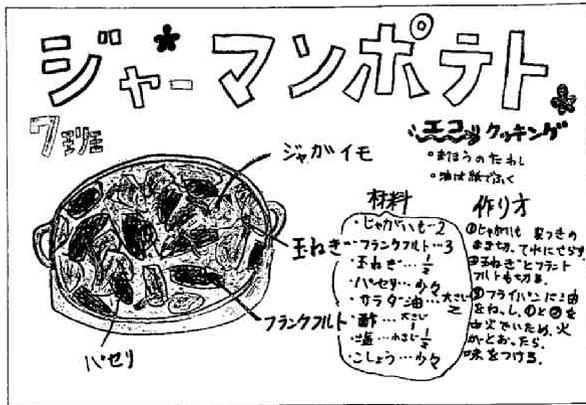
感想  
プリンを作るとお湯を少し加えて混ぜるとプリンが固まりやすくなるよ。

<キッズアイデア>  
資源ゴミをリサイクルへ

考えたこと  
ペットボトル(水)を洗って牛乳パックに入れて干す。お酢を少し加えて混ぜるとプリンが固まりやすくなるよ。

調べたこと  
どこで何を回収しているか  
資源ゴミ回収所…石巻市環境課  
牛乳パック…牛乳パック回収ボックス  
ペットボトル…ペットボトル回収ボックス  
資源ゴミ回収所…石巻市環境課

感想  
地球の環境にいいことをやっていると思いました。



調理の工夫コンクール

じゃがいもや加工食品の仲間達の愛情スープ

1. 自己評価しましょう。(Oをつけましょう。)

1. じゃがいもや加工食品の仲間達の愛情スープができたか	大変よい	もう少し
2. 買い物の仕方、買い物カードの書き方はどうか	大変よい	もう少し
3. エコクッキングができたか	大変よい	もう少し

2. ごみの分け方を考えよう。

生ごみ  
にんじん  
じゃがいも  
の皮

洗えるごみ  
コンソメの箱

洗えないごみ  
ビニル袋  
サランラップ

資源ごみ  
牛乳パック  
トレー

ごみをもっと少なくする工夫を考えましょう。  
ビニル袋をお店から持ちわない。  
野菜を洗う時、水も出さず洗い。  
トレーはリサイクルに出す。

3. 感想を書きましょう。(3つのめあては、達成できたかな。)

じゃがいもや加工食品をたくさん使えた。  
買い物はビニル袋をもらわないで、家にある買い物袋を使った。  
にんじんを買う時、残さないように1本で売っているものを買った。  
ベコンが入っていたトレーはリサイクルに出した。  
お皿を洗う時、魔法のたわしを使い、水をたしはなしにしないようにしました。

<環境カード>

11月6日 調理の工夫コンクール

ゴミに気をつけて

買い物をした時は、量を考えで買いました。あまらないように気をつけました。ゴミは生ゴミ、もえごみ、など分別しました。おき缶はリサイクルに出し、生ゴミは給食室の裏で処理してもらい、たまねぎの皮はたまねぎをゆでるために先生に渡しました。あと、油を使わなかったことがよかったです。

11月7日 調理の工夫コンクール

環境に良い調理

私は、マカロニが入っていたカンをリサイクルしました。しょきを洗う時は「クネン」を使って、も、なかなか油よごれが落ちなかったけど、はい油から作った石けんを使ったら、油よごれがキレイに落ちました。

11月7日 調理の工夫コンクール

少ないゴミで料理をしよう

少ないゴミで料理をすることは結構たいへんでした。じゃがいものかかわでもうすぐきたりプラスチックの箱やたまねぎのかかわなどは、全部リサイクルにまわしたので、あまりゴミがでなくてよかったです。

(5) 考察

- ・コンクールに向けて目的意識をもち、じゃがいもや加工品や買い物について調べたり考えたりすることができた。また、それぞれの班のよさを認め合うことができた。
- ・児童の夏休みのチャレンジカードを活用することにより、「エコクッキング」を身近なものとして考え計画することができた。
- ・買い物・調理・片付けのすべての場面で、環境について考え実践することにより、児童自身が成果と課題を確かにつかむことができた。課題は、生活の中で取り組んでいけるように支援したい。
- ・「児童の発想を生かした計画カード」「作る手順を書くタイムテーブルのカード」「実習後のごみの分別と自己評価のカード」など学習カードを工夫したことにより、意欲的・計画的に実習に取り組むことができた。また、評価や支援にも役立った。
- ・授業と授業を結ぶものとして「家庭科だより」を発行することは、児童の関心を高め、支援する方法として効果的だった。

### 3. 参考資料

#### (1) 学校行事と結びつけたリサイクル作品の工夫

牛乳パックからカードを製作した。簡単にでき、環境について、身近なところから自分のできることを実践していこうとする意識をもたせるうえで効果的であった。このカードを、展覧会の作品につけるメッセージカードとして工夫させたが、学校行事と結び付けることで、目的意識をもち、意欲的に取り組むことができた。



熱湯につけて3日間おいた牛乳パックの両側のシートをはがす



あて布をしてアイロンで乾かす



布、色画用紙などを利用してメッセージカードを工夫

#### (2) 児童の学習カードから

##### <事例1の環境カード>

地球のために 自分のために いますぐできること		の ( )		
環境を守るためにできること		1学期	2学期	3学期
油はすぐ捨てないで次のためにとっておく。	◎			
生ゴミを土の中に入れて、肥料にする。	○	◎		
古新聞を出す。	◎			
広告の裏の白い所を切りメモにする	◎			
水を使いすぎない	◎			
よごれて使えなくなったタオルを、台ふきにする			◎	
はっぱやスクロールをスーパーに持っていく			◎	
お米のとぎ汁を植物にやる			◎	
クレープなどはあまり使いすぎない			○	

やっていることに◎ やりたいことに○ をつけましょう。

10月24日 牛乳パックのリサイクルカード作り

感想  
牛乳パックでカードを作るのは、意外と簡単でした。できた紙は、ふっふの画用紙に似ていたので、牛乳パックには、いい紙を使っているのかなと思いました。それをそのまま捨てるのはもったいないので、リサイクルをしたいなと思いました。

##### <1年間を通して記録した環境カード>

ひとりひとりが気をつけてきれいな地球を守ろう！！

#### ①流しは海の入口

5月9日 ご飯とみそ汁の実習  
米のとぎ汁を植物にかけるとその植物がぐんぐん育つことが分かった。とぎ汁を流してから流すと魚が住めなくなるので、家で米をとぐ時は、植物にかけるようにしている。

#### ②魔法をかけて大変身

7月11日 オリジナルグッズ作り  
Tシャツからクッションやきんちゃく袋が作れることを知った。  
牛乳パックを使っていすを作ることも知った。  
ふたつにない物から使える物に変わるのでもれからも、いろいろな物を作りたい。

#### ③地球を守ってゴミを減らそう

9月6日 夏休みチャレンジ発表会  
もう使えない布でカレンダーやぬいぐるみを作ったり、野菜のしんをいまして食べられるようにするものによって、ゴミを減らし、地球を守れることが分かりました。実習の時に米のとぎ汁を草花にかけるといいと言われたのでやってみたら元気に大きく育ちました。

①洗たく機と手洗いの違い

11月3日	洗たくの実習
	きたない部分を洗いで洗うと洗たく機よりもきれいになることが分かった。 洗たく機はたくさん量を洗うときは便利だけれど、部分的に洗うのでは手洗いの方が水をあまり使わないので水の節約にもなる。

②環境にいい調理

11月7日	調理のエサコンクール
	魔法のたわしで食器を洗ったらきれいになった。 たまねぎの皮は、たまねぎ染めに使うので先生に渡した。 ベコンが入っていたしはリサイクルに出した。 食器を洗うときは、水をだしすぎないで少しだけですすうがした。

③魔法をかけて木変身

11月14日	リサイクルグッズ作り
	牛乳パックにカラーアイロンをあてるたけいて、つくのブームくみた。 たまねぎ染めは5年生の時にしたあいそめに似ていた。 謝恩会でコースターとして牛乳パックで作りたい。

4. 「第6学年」のまとめと考察

第6学年は、年間指導計画のもとに、全領域で環境問題に目を向けられるようにした。そして、児童の意識を高め、少しでも自分にできることを増やすために、授業実践を行い研究を深めた。

・導入の工夫

第6学年で、環境問題の学習を進めるにあたり、「ビデオレターが届いたよ」など他校の実践例を導入に用いた。児童は「自分もできることをやってみよう。そして返事を出そう。」と興味・関心を示し、意識を持続させるのに役立った。また、夏休みの児童の実践を洗たくの学習の導入として活用したことにより一人一人が課題をもち実験に取り組むことができた。

・学習カードの工夫と活用

「一人一人が気をつけてきれいな地球を守ろう」という環境カードは年間を通して記入し、関心、意欲を持続させることにより環境への意識を高めるのに効果的であった。また、「環境を守るためにできること」のカードを学期ごとに記録し、自己評価することで、児童自らが環境への取り組みを見直すことができ、教師もカードを見て適切な支援を行うことができた。

・課題解決的な体験学習の場を多く設定する。

「地球にやさしい洗たくを考えよう」では、夏休み中に実践した環境問題に対する取り組みを土台にし、児童一人一人が課題をもって学習に取り組み、どうしたら「地球にやさしい洗たく」ができるか、考え実践することができた。

また、「調理のくふう」では、環境に配慮した買い物から調理、後片づけという一連の調理実習を通して、自分なりに工夫し、実践することができた。さらに、コンクールを行うことで、目的意識をもって取り組むことができ、「エコクッキング」を身近に考えることができた。

その他にも、牛乳パックをリサイクルした作品づくりとして展覧会の作品につけるメッセージカード、謝恩会の招待状やプレゼント、子ども祭りの作品などは児童に身近なところから自分にできることを実践していこうとする意識をもたせるうえで効果的であった。このように学校行事と結び付けた教材の工夫は、児童が目標をもって取り組むことになり意欲も高まった。

以上のように学習を進めてきたが、一人一人が意欲をもって実践していけるように今後も工夫をしていきたい。

## IV 研究のまとめと今後の課題

本年度は、環境教育を通して、よりよい生活を目指し、考え判断し実践する力を育てるために、主に学習活動の工夫について研究を深めた。

### 1 「第5学年」のまとめと成果

- ① 環境教育の導入として、ごみに関する題材を取り上げた。ごみの分別やリサイクルに出すやり方の体験をしたり、リサイクルマップを作ったりしたことにより、興味・関心や意欲をもって学習することができた。ごみやリサイクルに関する言葉や知識が理解と結び付き、自分の生活に合った実践ができるようになった。
- ② 家庭での調べ学習によって、身近な地域を、ごみの収集・リサイクル品の回収という観点から見直すことができ、環境問題への児童の意識を高めることになった。
- ③ ごみの実物を使用しながらの学習で、一人一人の課題も見付けやすかった。全時を通して同じごみの実物を使ったことにより、分別から収集場所・回収場所調べへと学習の課題を発展させることができた。さらに、それらのごみの実物は、無駄な消費の見直しや物の大切な使い方、不用品の有効利用などの具体的な考えを児童から引き出すことができ、環境に優しい生活を意識し、実践しようという意欲につながった。

### 2 「第6学年」のまとめと成果

- ① 他校との交流を取り入れたり、一人一人の取り組みを紹介し合ったりした導入の工夫や、継続的に行ったワークシートの記録、学校行事と結び付けた教材の工夫は、児童の意欲や環境への意識を高め、身近な環境に目を向けさせることにつながった。
- ② 一人一人の発想や生活体験を大切にしたり、夏休みの取り組み・洗濯実習・エコクッキングなどの活動を通して、児童は課題をもって学習に取り組むことができた。
- ③ 1年間の学習の中で様々な題材を通して環境問題に触れ、体験学習を重ねていく中で子どもたちも環境への意識をもち続け、自分なりに考え自分なりにできることをやろうとする実践力が深まった。
- ④ 地域や校内の人材活用や、最新情報の活用なども、児童の関心を高め、環境の保全に目を向け、環境に優しい生活を意識することにつながった。

### 3 今後の課題

- ① 環境教育の題材として、5年生で身近なごみを取り上げたが、その後の学習でどう発展させていくか、また、6年生の学習との連携、地域との連携など、さらに指導計画の研究が必要である。
- ② 年間指導計画の中で、各題材と環境問題のつながり、指導時数や指導すべき内容は、領域のねらいを踏まえた上で、社会の動きを敏感に受けとめながら見直していく必要がある。
- ③ ワークシートとの関連も含め評価と支援の在り方についても研究を深めるまでには至っていないので、その点を加えて環境教育の在り方をさらに研究し、実践力の育成を大切にしたい。